

研究室が新しくなりました!



建物外観

新しく明るい研究室です。快適で、ついつい住み込んでしまいます。

昨年に機械・建設棟が改装され、研究室の内装が一新しました!どんな様子になったのか、紹介したいと思います。

①エアコンの完備

以前はスチームのみでしたが、今ではエアコンが付いています。夏の気温が高い1カ月を除けば、研究に集中しやすい環境になりました。(温度調整はほとんどできませんので、日当たり良好な場所では暑くてたまりませんが...)冬は快適な暖かさなので、修士論文の発表が近い先輩などは、研究の合間にうとうとして、風邪をひかずにいられると評判です。

②二重窓

以前は二重窓ではなかったので、冬になる

と、結露がひどく、カビが生えている部分もあったものでした。しかし今では、二重窓のおかげで、結露もほとんどないですし、断熱の効果で窓際でもさほど寒くありません。二重窓の難点としては...、空気の入替をしようとして、内窓のみ開けて、外窓を開けるのを忘れるくらいでしょうか。(結局、数分後に外窓の存在を思い出したりすることがあるのです。)

③ガラス張り

以前は全面が壁でしたが、改装後は、一部をのぞいて、ガラス張りになり、廊下から丸見えになっています。これは正直、少し恥ずかしいです...。しかし、安全面を考えると、ガラス張りであることは、いいことなのでしょう。

そこで、いい面を考えてみました。まず、ドアを開けなくても、誰が中にいるかわかるので、ちょっとだけ手間が省けます。また、他の研究室とは違ったカラーを発揮することができます。たとえば、私たちの研究室では、先輩や先生が学会で発表したポスターを、外から見えるように飾っています...しかし、それにしても、やっぱりガラス張りは恥ずかしいです。

これだけいい環境になったので、今後、研究にもますます身が入るのではないのでしょうか?!

ギダイみてある記 取材班  
機械創造工学専攻1年  
文章・写真/伊倉 沙紀(玉川学園高等部出身)  
写真/星野 信(長岡高専出身)

編集後記

今年の冬はたくさん雪が積りましたが、この号が出る頃には、たぶんすっかり融けて暖かくなってきていることでしょう。この時期がくると、また学生たちが旅立っていきます。大学生活を振り返れば、いろいろな思い出があったことでしょう。その断片が本号には刻まれています。それぞれの配属先の研究室でしっかりと鍛えられ、論文提出や研究発表会といった最後の関門をくぐり抜けた卒業生たちは、昨今の厳しい社会情勢の中でも、必ずやたくましく切り抜けていけるはず。今後の活躍を祈念します。

VOSの由来 本学のモットーである、Vitality, Originality, Servicesの頭文字をとって、本学初代学長の故川上正光氏により名付けられました。



VOS NO.156 [平成22年3月号]  
編集発行 長岡技術科学大学広報委員会[総務部 総務課]  
◎本誌に対するご意見等は下記までお寄せ下さい。  
〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町1603-1  
Tel.0258-47-9209 Fax.0258-47-9000  
E-mail: skoho@jcom.nagaokaut.ac.jp URL: http://www.nagaokaut.ac.jp/

VOS VITALITY ORIGINALITY AND SERVICES  
長岡技術科学大学 広報



No.156  
2010.March

特集 卒業・修了

CONTENTS

- 02\_ 学長告辞
- 04\_ 卒業・修了を祝して
- 06\_ 贈る言葉/卒業・修了にあたって
- 15\_ 退職にあたって
- 18\_ 行事報告
- 19\_ 長岡の歴史探訪/トピックス
- 20\_ ギダイみてある記/編集後記



# 学長告辞 MESSAGE

FROM THE PRESIDENT



長岡技術科学大学長

## 新原 皓一

KOICHI NIIHARA

MESSAGE FROM THE PRESIDENT

### >>> 卒業・修了を祝して

卒業生そして修了生の諸君おめでとうございます。

本日、ここに平成21年度の卒業式、修了式を迎え、学士、修士そして博士の学位を獲得した諸君に心からのお祝いを申し上げます。また、今日まで諸君を長年にわたり慈しみ育ててこられた保護者の皆様には、お礼とともにお祝いを申し上げます。

留学生諸君は、家族と遠く離れ、言葉も習慣や文化も、そして気候も大きく異なるこの長岡の地における生活と勉学そして研究には大変な苦勞があったと思います。この環境変化を力強く乗り越えた諸君の長きにわたる努力とチャレンジ精神に敬意を表すと同時に、今後も更に研鑽を積み重ねて、長岡で学んだ「ものづくり技術」の心とそれを支えてきた日本文化に根ざした「人づくり」の心を生かして、力強いリーダーとして母国の技術科学の発展のためにご尽力されることを強く願っています。

一昨年のアメリカのリーマンブラザーズが引き起こした経営破綻は、世界的な同時不況をもたらしました。我が日本でも未だに不況から脱出しきれない工業分野があり、このために未だに厳しい就職難が続いています。しかしながら、社会の変化を先取りする「技術科学」すなわち“技学”を創出し、それを通して未来社会で持続的に貢献できる実践的で創造的能力を備えた指導的技術者の育成を図る本学の基本理念のもとに育った諸君は、2月末の時点で、学部生の場合は就職を希望した全員が、また大学院修士課程の場合は97%以上の学生が就職活動に成功したと報告を受けています。このことを諸君や保護者の皆様にご報告申し上げるとともに、お祝いを申し上げます。

私は、昨年9月16日に本学の第7代目の学長に就任いたしました。この日は、民主党に政権が交代した日でした。この政権交代は日本国民が大きな変化を求めた結果ですが、考えてみますと本学も開学以来34年が過ぎ、30年前には想像も出来なかった社会の変化が起こり、それに対応するためには、本学も未来を見据えた変革を遂げる必要があります。それを成し遂げることが、私に課せられた使命と考えています。そのために、学長就任以来、多くの先生方や事務職員の皆様、高等専門学校の先生や学生諸君、本学の同窓生の皆様、更には地域の皆様と、本学の将来あるべき姿を確立するための議論を重ねてきました。

その議論を通して創り上げられた30年後にも第一線で活躍できる人物像と大学像をここに紹介したいと思います。人物像の観点からは、①知識と技術スキルが豊富であること、②情報分析能力があること、③戦略性が豊かであること、④好奇心にあふれ、感受性が豊かであること、⑤率直かつ寛大であること、等が必要であると考えています。また、30年後も活躍し続ける大学像としては、1)本学に関係するすべての人々、すなわち、国民の皆さん、地域の皆さん、高専および工業高校・普通高校の学生、そしてもちろん本学学生・教職員が、本学に対して自信と誇りを持つ「のびやかな」大学、2)技学と国際化のセンスを取得した人材の輩出、また、先駆的な研究など、様々なターゲットへ解決法を提供するために無くてはならない「かけがえのない」大学、3)雪国に育つ豊かな心というすばらしい文化価値を財産に、対話重視により、本学に関係するすべての人々の間の壁を取り払い、真の相互理解をもった「あたたかい」大学、4)高専、工業高校などとの連

携を深化し、世界で類を見ない全国規模の高等教育研究体として、明るい未来を築くための様々な問題解決が出来る「たのもしい」大学、5)各種の資源の効率的な運用をはかり、高専生、在学生、若手教員など若い方々にやりがいのある環境を整備し、中長期的に発展できる「ゆるぎない」大学を目指します。この人物像と大学像を具現化できる改革を学長任期の4年間で実現すると諸君に約束します。諸君の力強い支援をお願いします。

昨年10月に、文部科学省の坂田事務次官が本学を視察されました。限られた時間での視察でしたが、ある研究室を訪問した際に、留学生が流暢な日本語で研究成果を説明したことに関心を示され、多くの質問をされました。また、お帰り際に私どもに「新しい時代の変化を恐れず」との言葉を残されました。この言葉を、諸君に贈るとともに、私の方からも「3つのi(愛)の心」と「全ての人を好きになる愛の心」の2つの言葉を贈りたいと思います。Intuition(閃き)とInvention(発見)とInnovation(革新)の3つのi(愛)の心は、困難や失敗の中から革新的な成果を創造する心です。容易に得られる情報を身につけるだけでは単なる博学でしかなく、この心は養われません。どのような厳しい環境をも、またどのような人をも、自分から好きになろうと努力することで養われる心です。ですから、誰もが持つことができます。この「3つのi(愛)の心」と「全ての人を好きになる愛の心」が、これからのグローバルな社会、言葉をかえると勝ち組が全てを取るデジタル社会において生じる様々な壁と格差を打ち破っていくために最も必要とされる力、すなわち自分の限界にチャレンジし、それを突破する力を育てると私は信じています。

私の後ろに掲げている新しい「ロゴマーク」が昨年12月に決定しました。これは、長岡造形大学の福田先生が約100種類デザインした中から、本学の学生及び教職員、技大祭に参加くださった地域の皆様に投票していただき選ばれたロゴマークです。このロゴマークは、長岡のNをモチーフにデザインされたもので、天に伸びる青い色は環境を表し、それをリング状の赤い色が包むことで、地球環境を愛情と情熱をもって考える大学であることを示したものです。今後は、あらゆるものにこのロゴマークを使用する予定です。本日、皆様にお渡しした学位記の表紙もこのロゴマークが印刷されていますが、学位記としては、新ロゴマークの第1号です。

本学の初代学長の川上先生が提唱された、VOSの精神(Vitality:活力, Originality:独創力, Services:世のための奉仕)は大学だけではなく、社会に出ても非常に重要な心得です。この長岡の地で学び、本日卒業そして修了される諸君には、このVOSの精神を生かし、そして長岡で育んだ優しさや逞しい精神力を誇りにし、様々な場面での継続的な活躍を期待します。

最後に、今日卒業そして修了し社会に羽ばたかれる諸君に、「誰かが何時も諸君を見守り続けている」、即ち長岡技術科学大学は、教職員の皆様は、そして学長は、諸君の活躍はもちろんのこと、重大な局面に会った時でも何時も諸君を見守り続けていると伝えたいと思います。それを信じて、常に未来を見続け、自分の力を信じてチャレンジし、努力を積み重ねて大きな成功を収めてください。本日は、卒業そして修了おめでとうございます。

# 卒業・修了を祝して

## 卒業・修了を祝して



MESSAGE

理事・副学長  
(教育研究、中期目標・計画、将来構想担当)  
武藤 睦治  
—  
YOSHIHARU MUTOH

学部卒業生・大学院修了生の皆様、誠におめでとうございます。

皆さんが勉学に励まれた本学について皆さんはよくご存じでしょうか。残念ながら、本学の教育・研究の取り組みの成果がどのようなかはあまりご存じないのではないかと思います。例えば、2008年のWebometricsの世界の大学ランキングに1015番目ですが載っています。日本の中では、全国約700大学の中で、教員一人当たりの学生数(少ない):12番目、学生一人当たりの校舎面積:9番目、学生一人当たりのパソコン設置台数:3番目、NHKロボコン入賞(累積値):1番目、インターンシップ:2番目、教員一人当たりの論文数:18番目、教員一人当たりの化学論文抄録誌掲載数:4番目、教員一人当たりの外部資金:15番目(以上、朝日新聞社「大学ランキング」による。)といったように、上位の成果を上げています。残念ながら、入試におけるランキングは、受験雑誌によれば国立大学法人(約70大学)の中で下位となっていますが、本学の活動の実態を表していません。また、本学は、よくご存じのように、実践的な技術の開発を主眼とした教育研究を行う大学院に重点を置いた工学系の大学として設

置され、実践的・創造的能力を備えた指導的技術者の養成を目指しており、この独自で優れた目的・理念に基づき、教育システムが構築され、研究がおこなわれています。以上のような、本学の優れた理念と教育・研究への取り組み、さらにその成果は、皆さんが社会に出て大いに誇りにしていただけるものであると思います。

本学では、皆さんが本学を誇れるような、さらに優れた成果を上げるとともに社会からの高い評価を得るため、教育・研究体制の継続的な見直し、改革を進めています。そのためには卒業生・修了生の皆さんの社会におけるご活躍と、本学への温かいご支援が欠かせません。

卒業・修了に際して贈る言葉は、例えば「高い目標」、「熱意・意欲」、「希望」、「あきらめない」、「継続は力」、「自分を信ずる」、「楽しむ・集中する」、「周りへの感謝」など多くありますが、それらは本学のモットーであるVOSに集約されるように思います。折に触れ思い出していただければありがたいと思います。

最後になりましたが、皆様のこれからの社会でのご活躍・ご発展を祈念いたします。



## 長岡から未来へ引き継ぐ「天地人」



MESSAGE

長岡市長  
森 民夫  
—  
TAMIO MORI

長岡技術科学大学に学び、卒業、修了を迎えられる皆さん、おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

皆さんはこれからいよいよ実社会へ、あるいはさらなる勉学の道へと、新たな第一歩を踏み出すことになります。創造性あふれる“考え出す大学”のなかで磨かれた、問題を解決する力、新しい何かを発見する力、先を見通す力、実践する力を持って大きく飛躍され、志を成し遂げられることを期待しています。

さて、皆さんもご覧になったかと思いますが、去年はNHK大河ドラマ「天地人」が放映されました。与板城主であった直江兼続を主人公とした作品に、地元の長岡市は「天地人花火」を打ち上げるなど、とても盛り上がりました。

直江兼続は、戦国の世において上杉家の家臣でありながら、豊臣秀吉、徳川家康らを魅了し、また最も恐れられた男であったそうです。

兼続が師と仰ぐ上杉謙信は、裏切り、謀略など戦国武将が「利」に生きた中で、「義」を提唱しました。私利私欲を捨て、人と人との関係を大切に。それを常に自問自答し、実践した武将です。

兼続は兜に「愛」の文字を掲げ、その波乱の生涯を通じて、民・義・故郷への愛を貫き通し、自分が正しいと信じたことを守り抜きました。

その兼続の生き様は、弱者を切り捨て利益追求に邁進し、「品格」を失いつつある現代社会に今も鮮烈なメッセージを送っております。

天の時、地の利、人の和が整ったとき、ものごとは達成されます。皆さんも、人との信義を大切に、公の心を持ち未来へ向けて巣立っていただきたいと思っております。

古来より越後長岡の豊かさを支えてきた「雪」。小説「天地人」を引用すれば、「雪は苦しみだけをもたらすのではない。…長い冬をじっと耐えたあとの桜は、ことさら美しく咲くもの」であり、やがて春になれば雪は解け、川となって田畑を潤し、私たちに豊かな実りをもたらしてくれます。

今も昔も変わらない、雪に包まれ春を待つ光景は、遠く離れても忘れることのできないものでしょう。皆さんにとって長岡は、いつまでも心の故郷、誇りであってほしいと願っております。

これから皆さんがそれぞれの道を進むとき、迷い、苦しみ、悩むことがあるでしょう。たとえ厳しい状況に立たされたとしても、雪国人の粘り強さ、しぶとさを発揮され、最後まであきらめないで突き進まれることを期待しております。

新しい環境で、皆さんが存分に力を発揮されますよう、長岡市民とともに心から応援申し上げます。



系長から贈る言葉



MESSAGE

機械系副系長  
古口 日出男  
—  
HIDEO KOGUCHI

活躍を期待して

ご卒業・修了、おめでとうございます。大学院に進学する人そして会社に就職する人、それぞれの人を取り巻く状況は異なりますが、受け入れる人々は皆さんの積極的な行動に期待していることでしょう。大学院に進学する人は研究室に、会社に勤める人は職場に「新しい風」を吹き込んでくれることが期待されています。ところで日本の社会情勢は、一昨年のリーマンショックに端を発した経済状況の悪化がまだ完全には収まっていません。社会人として出発する人は景気低迷に伴う影響を受けることでしょう。しかし、皆さんはこれらの困難に立ち向かわねばなりません。現在の社

会は景気の低迷への対応どころか、温暖化への対応を社会全体で考えることが求められる時代でもあります。このような多くの問題が生じている社会に出て行く皆さんは、様々な困難を経験されることと思います。しかし、これらのことは皆さんを精神的にたくましくしてくれることでしょう。一方、さらに大学院に進学する人は、実務訓練で社会の一端を垣間見て、さらに大学で研究をしていきますが、ぜひとも実務訓練での経験を生かして大学院生活を意義のあるものにして欲しいと思います。皆さんの今後の活躍を期待したいと思います。

卒業・修了にあたって

大学院修士課程(留学生)



MESSAGE

機械創造工学専攻2年  
(マレーシア出身)  
モハマド アザハリ ビン ラザリ  
—  
MOHD AZAHARI BIN RAZALI

Experience in Nagaoka

I came to Nagaoka University of Technology on 25/10/2007. It was the first time for me to visiting abroad from Malaysia. I have experienced a lot of interesting things not only in the research work but also in the daily life. Here, I would like to introduce one of the most impressive experiences for me in the life in Nagaoka: the Fireworks Festival. It is an annual event held on August. I have seen this event twice during my stay here. They say this is one of the most popular fireworks festivals in Japan.

The festival is held at the site located between two main bridges over Shinano River, the longest river in Japan. As it getting dark, the performance starts. Enormous amounts of colorful fireworks are being continuously launched just above my head as if all types of fireworks in the world can be seen. I have never seen such kind of fireworks in my life.

The research work was much tougher than initially imagined, but I could have completed it owing to much help from many people especially members in my laboratory, and of course to the joyful life in this country. I am going to proceed to the doctoral course to attain my ambition to become a leading researcher in my home country.



The best shot I took in Nagaoka Fireworks Festival 2009

系長から贈る言葉



MESSAGE

電気系系長  
大石 潔  
—  
KIYOSHI OHISHI

Changeさせるのは君だ!

ご卒業、ご修了、おめでとうございます。これから、社会人として歩み出されるみなさんに心よりお祝い申し上げたいと思います。政界、然り。角界、然り。現代の日本はあらゆる分野で制度疲労がおこっています。世界規模でめまぐるしく社会が変化する中で、いままでのやり方や考え方が通用しなくなっているのです。広い視野に立った「新しい考え方の提案」なくして、この状況の打開はありません。

そして、この長岡技術科学大学でみなさまが学ばれた「工学」はまさに現実を見極め、新しい考え方を提案し、実行していく学問です。みなさんはまさにこの混迷の時代を切り開く方法を学ばれたわけです。ここで学ばれたことを土台にして、考えてください。提案してください。決して傍観者にならないください。みなさんこそが新しい時代をつくる人材であると信じています。ご活躍を期待しています。

卒業・修了にあたって

学部



MESSAGE

電気電子情報工学課程4年  
(石川高専出身)  
朝倉 剛史  
—  
TAKESHI ASAKURA

大学生活で学んだこと

長岡での生活が終わろうとしています。この時期、これまでの大学生活を思い出しては感慨深いものを感じます。そもそも私が大学へ行くことになったのは、好奇心からでした。そのため、「とにかく行動的になろう!」という気持ちを忘れないよう心がけました。そのおかげか、多くの貴重な経験を積むことができたと思います。カンボジアへ行ってボランティアをしたり、震災復興のお手伝いをしたり、選挙活動に関わったり…。人間やろうと思えば、結構どんなことでもできるものです。でも、やろうとしなければそこで終わりで

す。「好奇心」と「行動力」は、自分の可能性を広げる為に必要なものだったんだと、自身の経験を通じて学ぶことができました。学業についても同様です。受け身の学習ではなく自ら進んで取り組むことで、得るものは多くなります。社会に出てもこの気持ちは忘れないようにします。また、大学生活では多くの出会いもありました。ここで築いた人間関係も大切な宝物です。これまでお世話になった方々、大学生活を通じて出来た仲間たちには感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



研究室のOBも交えたスキー旅行!

系長から贈る言葉



物質・材料系長  
塩見 友雄

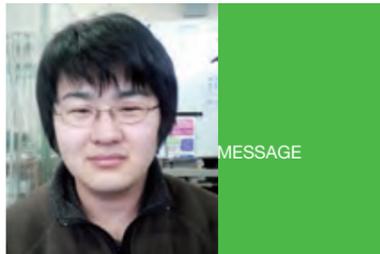
—  
TOMOO SHIOMI

諸君への期待

卒業、修了おめでとうございます。諸君は在学中、専門知識や研究の進め方等多くのことを学びました。クラスや研究室ばかりでなく課外活動等を通じて多くの人に会い友達を得たことと思います。学生時代に得た経験や知人・友人は一生忘れられないことでしょう。就職する諸君は、昨年度と打って変わって就職活動に厳しいものがあつたと思います。しかし、その分企業等でも期待されることでしょう。経済は常に好不況がつきまといまふ。そのような循環を通しながらも社会が発展し人々の生活が豊かになっていく基礎は、技術者・研究者の努力にあると思います。諸君はこれから様々な状況に身を置くことでしょう。

それを乗り越えるためには不断の努力が必要です。次への飛躍は、実力と運の掛け算で決まります。どちらがゼロでもゼロです。運は必ずしも自分の思うようにはなりません、実力は自分で付けることができます。「運も実力のうち」とか「運を呼び込む」と言います。これはいつチャンスが来ても常にそれに見合う実力を付けていることを言うのでしょう。諸君の前途は洋々としています。精神的体力的に頑張れる若い内にこそ高い山に登って下さい。一つの山に登れば次の高い山には一から登るより容易です。高い山に登れば登るほど広い範囲が見渡せます。またすぐに降りてしまうこともありません。諸君の幸運と輝かしい未来を心より祈ります。

卒業・修了にあたって



材料開発工学専攻2年  
(鶴岡高専出身)  
梅田 俊祐

—  
SHUNSUKE UMETSU

修了にあたって

長岡技大での生活もいつの間にか終わりが近づいています。この4年間本当に色々なことを学んできました。一番印象に残ったことは、4ヶ月間の実務訓練でした。4ヶ月間という短い期間ではありましたが、企業の一員として働き最先端の研究をしたこと、人間関係の複雑さを学んだことはこれから社会人として生きていくための良い経験となりました。実務訓練が終わって数ヶ月後、担当だった人から連絡があり、自分の研究結果が高く評価され、実際に製品化に繋がった事を伝えられたときは、非常に嬉しかつ

たことを覚えています。話は変わりますが、周りの友人を見て、ただ毎日勉強するだけでなく、心から遊ぶことも大事だったと感じました。節目の時期だけでなく、気分が落ち込んだり、心が折れそうになったときには研究室の皆とバーベキューをしたり、仲間内で飲み会をしたり、釣りに行ってみたいと、大騒ぎしてストレス発散の場を設けて心機一転し、研究に戻るようになりました。一緒に騒いだ友人や、共に学んだ同期の皆、指導して下さった先生や先輩に心から感謝しています。本当にありがとうございました。



2年前の卒業式の写真です。時が過ぎるのが早すぎて、つい最近の出来事のように感じます。

系長から贈る言葉



環境・建設系長  
丸山 暉彦

—  
TERUHIKO MARUYAMA

仕事を楽しむ

卒業、修了おめでとうございます。大多数の人は就職し、プロとしての仕事を始めることになりまふ。将来に不安を感じている方もおられると思いますが、大切なのは仕事を楽しむことです。大リーグで活躍中のイチロー選手は「僕自身は野球が大好きなので仕事だと思つたことはあまりないです。野球は趣味が仕事かと聞かれば、僕の場合はバリバリ趣味です。新しいことをどんどん追求していくのが楽しいからやっている。好きなことだから、努力が苦痛ではない」と言っています。また、ベストセラー「行列ができる店はどこが違うのか」の著者、大久保一彦氏の言葉に「どんなつらい

仕事も楽しみながらしていれば奇跡が起こる。挨拶を交わしてくれる人が現れたり、うちで仕事をしないかと誘われたり、縁にめぐり合う」というのがあります。プロの山岳ガイド今井晋氏からは、「プロとアマの差は意識の持ち方で、常にトラブルはあるものと考えている。クライアントから、足が痛い、お腹の調子が悪い、靴が壊れたなどと言われても、限られた条件の中で工夫し対応する。小さな失敗の繰り返しで、自分が成長していく過程が楽しい。」という話をお聞きしました。皆さんにも仕事を楽しんでいただけたらと思い、この人たちの言葉を贈ります。

卒業・修了にあたって



環境システム工学専攻2年  
(木更津高専出身)  
天藤 由季子

—  
YUKIKO TENDO

4年間を振り返って

長岡に来てあつという間に4年間が過ぎてしまいました。慣れない土地での一人暮らしは不安でしたが、同郷の友人、楽しくて頼もしい新たな友人と過ごすうちにそんな気持ちはすぐにどこかへ消えていきました。大学生生活は、授業に試験、大学院では研究と、振り返ると大変なことが多かったように思います。初学会では、緊張と準備にあふたしながらも、先生や先輩の的確なアドバイスで研究を進め、発表資料の作成では、何度も私の拙い文章を添削していただき、なんとか乗り越えることが出来ました。この学会参加は、同じ分野を勉強する学生との交流が

あつたり、専門家の話を直に聞けたりと知識と視野を広げる貴重な経験で、参加でき本当に良かったと思います。また、友人の存在も大きかったです。楽しい時だけでなく、くじけそうな時、悩み事が出来た時など、何かあるたびに飲んで、話して、本当にかけがえのない日々でした。最後になりましたが、私の大学生生活を支えてくださった、研究室のメンバー、友人、家族、指導して下さった先生には心から感謝しております。長岡での経験は忘れずに、これからの新しいスタートの糧に頑張っていきます。本当にありがとうございました。



研究室メンバー。本当にお世話になりました。

系長から贈る言葉



MESSAGE

生物系長  
古川 清  
—  
KIYOSHI FURUKAWA

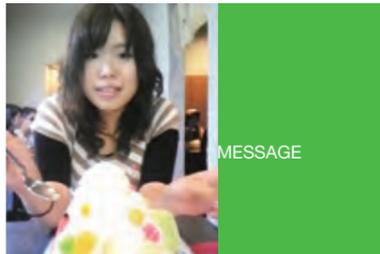
自分の足で歩む

大学あるいは大学院を卒業・修了するにあたり、お祝いを申し上げます。この人生における一区切りに、自分の足で歩むことの重要性を考えてみてください。公共施設の各階を移動するのに、エスカレーターという便利な輸送機があります。乗ってれば眼下を見渡せ、また次の階へ乗り換えれば別の風景が映り、なんだか偉そうになった気分がさせられるのは私一人ではないでしょう。これまでの学校生活を振り返ってみると、私達は小学校から中学校へ、中学校から高校／高専へ、高校／高専から大学へと、あたかもエスカレーターで次々と各階を乗り継いできたようなものです。即ち、各階に必要な知識を一方的に与えられ、上の階へ送り込まれてきまっ

たというのが現実ではないでしょうか。ですから大学や大学院を出ると、学問とまともに向き合っただけで、何となく偉そうになったように感じます。本来の学校教育は自分の足で一歩ずつ階段を上がっていく姿であったものが、いつの間にかエスカレーター化してしまったようです。一歩ずつ歩くことでしか探せない人生で重要な問題も、エスカレーターで見失ってしまうのです。今の社会にも、多くのエスカレーターが敷き詰められています。しかし、ここで問題なのは、エスカレーターはいつどこで止まるかは分からないことです。その時に、私達は自分の足で歩むことができるのでしょうか。自分の足で歩むことの重要性を、社会の扉を開けるこの機会に是非考えてみてください。

卒業・修了にあたって

学部



MESSAGE

生物機能工学課程4年  
(鹿児島高専出身)  
有村 侑恵  
—  
IKUE ARIMURA

2年間でふりかえって

2年前の4月。私は高専の電気電子工学科から生物系への編入ということもあり、初めは全く講義についていけず不安と焦りでいっぱいでした。同じように他学科から編入してきた友人と、「セントラルドグマって何…?」「新種の熊…?」といった会話をしながら、一緒に勉強したことを懐かしく思います。笑。

学部4年生になり研究室に配属されてからは、ゼミや学会の前などに徹夜をしたりもしました。何度やっても実験が上手くいかなくて、研究を投げ出して学校を辞めようと思ったとき

もありました。そんな時、支えてくださったのは周りの方々でした。アドバイスをくださった先生方や先輩方、励ましてくれた友人、周りの方々の支えがなかったら私はこの学校を卒業することは出来なかったと思います。

月日が経過し、卒業を迎えようとしています。講義をしてくださる先生方の

お話が100%理解できているようになったかと聞かれると返答に困りますが(苦笑)、編入当初に比べると理解できるようになった気がします。この2年間、いろいろな立場・年齢・国籍の方々との出会いを通して、勉強や研究のみならず、考え方や生き方、人間関係など本当に多くのことを学ばせていただきました。本学で学んだことをこれから生かしていきたいと思えます。

最後になりましたが、本学で出会った方々、支えてくださった方々に深く感謝いたします。



研修旅行にて

系長から贈る言葉



MESSAGE

経営情報系長  
福村 好美  
—  
YOSHIMI FUKUMURA

より、高く

ご卒業・ご修了、おめでとうございます。卒業生・修了生の皆さんが、社会人としての新しい門出を迎えられることに対して、心よりお祝いを申し上げます。これからは、サービスを受ける立場から、サービスを提供する側に立つことになり、自分の責任で判断することを求められますので、思考の切替えが必要とされるでしょう。この長岡技術科学大学において修得された工学的知見と探究心が、今後の活動に役立ち、さらには社会の進歩に貢献することを期待しております。中国の「菜根譚」に、「伏久者、飛必高」と書かれています。意味は、「長く伏せていた鳥は、飛び上がる

ときは必ず他よりも高く飛ぶ」ということです。重要なのは出発点ではなく、到達点の高さだ、と教えてくれています。新しい分野に取り組む場合には、最初は戸惑うことも多くまた、順調には進まないことが少なからずあると思います。しかし、地道な努力が必ず自分を高い所へと導いてくれます。

皆さんの若い活力と技術力で、最近の暗い世相を払拭して、我が国を含めてアジアの各国が世界の最先端を行くための基盤を構築してほしいと期待しています。是非、勇気を持って難問に挑戦し、より高く羽ばたいてください。

卒業・修了にあたって

大学院修士課程



MESSAGE

経営情報システム工学専攻 2年  
(福井高専出身)  
川南 篤司  
—  
ATSUSHI KAWAMINAMI

大学生活を振り返って

4年前、高専から編入学した当初、もう4月も中旬に差しかかるというのに講義棟の中庭にはかなりの残雪があり、大変なところに来てしまったと思ったことを懐かしく感じます。

たった4年間のデータですが、豪雪は隔年で訪れている気がします。長岡1年目は、期待(?)していたほど降らず、2年目は実務訓練で南魚沼にいたせいか、豪雪に苦勞させられました。この時、人生初めての雪庇落としを体験!3年目はまた少雪で、4年目の今年は、修士論文に追われる中、通学時の車の雪下ろしに苦勞させられました。

また、私は、学部は高専からの流れで生物機能工学課程に進みましたが、編入後に現在

の専攻に興味を持ち、大学院進学時に専攻しました。この際には、学部時代の研究室の森川先生、現在の指導教員である五島先生、さらには事務の方々にも大変なご助力をいただきました。学部時代の実務訓練では、受け入れ先の企業の方々に恵まれ、本当に充実した期間を過ごせました。研究室は、学部でも大学院でも本当に良い仲間にも恵まれ、学業や研究では苦勞もりましたが、大変楽しい学生生活を送ることができました。

このように、4年間で振り返ってみると、たくさんの方々への感謝の気持ちで一杯になります。4月から社会人になりますが、まだまだ若輩者ですので今後ともご指導よろしくお願いたします!!



酵素工学研究室(森川研)

追いコン2008



経営システムデザイン研究室(五島研)

研究室旅行2009in鬼怒川温泉

系長から贈る言葉



MESSAGE

システム安全系長  
三上 喜貴  
—  
YOSHIKI MIKAMI

》》 日本の安全をリードする担い手となった皆さんへ

皆さん、修了まことにおめでとうございます。仕事を抱えながら、週末や帰宅後の疲れきった時間を勉学や課題レポートの作成にあて、2年間にわたってゆまぬ努力を継続された皆さんに心から敬意を表したいと思います。システム安全専攻が専門職大学院として発足して4年、修了生としては皆さんが3期生になります。機械安全コースの時代から合計すると、すでに60名余りの安全専門家が本学大学院を巣立たれたことになります。修了生

の皆さんは、日本における安全安心社会の創造にあたって、それぞれの分野のリーダーとなられることと思います。

1期生の皆さんが修了のときに残した言葉に「安全に卒業なし」という名文句があります。安全の専門家として、また、勤務される職場での指導者として、今後もたゆまぬ新知識の吸収、後輩の指導に当たられ、日本の安全を牽引してください。皆さんのご活躍を心より期待しております。

卒業・修了にあたって



MESSAGE

システム安全専攻2年(社会人)  
勤務先:住友金属工業株式会社(茨城県鹿嶋市)  
佐柳 光昭  
—  
MITSUAKI SAYANAGI

大学院専門職学位課程

》》 2年間で振り返って

私は、茨城県に所在する住友金属工業株式会社鹿島製鉄所に勤務しております。当製鉄所は、自動車・家電向けの薄板鋼板を中心に、厚板鋼板、鋼管、形鋼など、付加価値の高い製品を製造している銑鋼一貫製鉄所です。その中で、私は所内の安全管理全般を担当し、設備安全化を推進しております。私が専攻したシステム安全専攻は社会人が対象で、カリキュラムの内容は、国際安全規格の思想に基づき体系立てられ、幅広い分野が網羅されていました。社会人ならではの実務に即した質問を身近に聞けたことは、授業の理解を深める上で大いに役立ちました。また、先生方におかれましては、専門分

野の異なる私たちの立場をご配慮戴きながら懇切丁寧にご指導戴き、心より感謝申し上げます。

この2年間、システム安全の学習を通じて特に印象に残ったことは、安全はみんなで力を合わせてやるものだと思うようになったことです。その上で、人のつながりは貴重な財産です。システム安全の体系を学ぶことを通じて、お世話になった先生方や、仲間達とのつながりをこれからも大切にしていきたいです。

最後に、これからも人のつながりをベースに『思いやりの安全』をみなさんと築いていきたいです。



インターンシップの研修先(上海)にて

系長から贈る言葉



MESSAGE

教育開発系長  
宮田 保教  
—  
YASUNORI MIYATA

》》 卒業生の皆さんへ

卒業生、修了生の諸君、おめでとうございます。

皆さんは、本学の教育のモットーである Vitality, Originality, Services (VOS) を身につけ社会に巣立っていくわけです。Globalな思考法、対話力も求められています。そのため、語学センター、理学センター、国際センターにより構成される教育開発系教員は、皆さんが言語による対話力、数学・理学による伝達力を身につけられるようサポートしてきました。

現在のように激しく変化していく社会では、自分で自分を鍛え、新しいことを自身に学習させていく、不断の努力が求められます。本学

で「ものづくり」を学びましたが、Global化した社会で皆さんに真に求められている技能は、これまでの大量生産技術ではなく、多品種少量高品質製品の生産技術です。このような要請にこたえられるよう、自分自身を鍛え続け、チャレンジを続けてください。

このような変革の時代に対処していくのは大変ですが、見方を変えれば努力に見合う成功のチャンスがあるということです。先人の言葉に、「人生は恐れを知らぬ冒険」ともありません。本大学で学んだ皆さんには、冒険を乗り越えられる力が十分蓄えられていると信じます。是非、人生の冒険を楽しんでください。

卒業・修了にあたって



MESSAGE

材料工学専攻3年  
(新潟県立長岡高校出身)  
本間 隆行  
—  
TAKAYUKI HOMMA

大学院博士後期課程

》》 出会い

大学生生活9年間、人生の三分の一を本学で過ごしてきたわけですが、振り返ってみると様々な出会いがありました。まず、勉学や遊びを共にした良き友人と出会えたことで、充実した学生生活を送れました。また、経済的に苦しかったことから始めたアルバイトでも関係者の方のご厚情をいただき、不安なく勉学に励むことができました。

そして、学部3年生のときに最も大きな出会いがありました。それは、高田雅介教授(現理事・副学長)をはじめとする、研究室の先生方、先輩方との出会いです。研究生活を送るう

で、良いテーマとも巡り合うことができました。国内に限らず海外での学会発表や英語での学術論文の執筆など、自分一人の力ではとても成し遂げられなかったことを先生方、関係者の方々のご協力により、なんとモノにすることができました。出会いに恵まれていたように思います。

上記の出会いが一つでも欠けていれば、今自分はここに立っていないでしょう。本当にラッキーな人間であると思っています。今後も出会いを大切に、感謝の気持ちを忘れず、人間として、工学博士として成長していきたいです。



研究室旅行でのキャニオニング

贈る言葉



むつみ会会長  
石山 文枝  
FUMIE ISHIYAMA

人と人を結ぶ

めったにない-5℃の気温を記録した今年の長岡の冬。留学生にとって、雪のある寒い冬の生活はどんなにか孤独であり寂しく厳しいものではないかと思われます。雪を抜きにしては考えられない長岡の生活を乗りきった皆様の表情は自信に満ち溢れています。

厳しかった冬ほど春の暖かさを感じられます。それと同じで遠く母国を離れ生活スタイル、習慣など全く異なる文化の中で勉学、研究をやりとげたことは、困難であればあるほど自己のかけがえのない財産です。この身に付けた財産(技術、思考)をどのように次へのステップ

に繋げていくかは最終的には人と人の関わりの中で発揮できるものと思います。

むつみ会発足時留学生は63人でした。6をむつつ、3をみ、と読む事も出来、むつみとは[仲良く]の意味です。留学生に長岡の生活が良い思い出となる様バザー、ハイキング、温泉、日本語スピーチコンテストなどの行事を通じ、毎水曜日相談室では片言の日本語を大切にこれからも人と人の関わりを財産にしたいと思っています。卒業・修了される皆様のさらなる活躍を願っております。心よりおめでとございます。

新しい門出を祝して

卒業、修了される皆さん、おめでとうございます。同窓会を代表して、お祝いを申し上げます。そして同時に、同窓会の正会員になられたことにもお喜び申し上げ、大歓迎いたします。

本学同窓会の会員数は1万人を超え、世界中で仕事をされています。皆さんも各界でご活躍されますよう期待しております。

今年度は、本県では45年ぶりに国体が、また、全国障害者スポーツ大会が開催されました。両大会の運営は、「おもてなしの心」を最も大切に行われたと聞いています。私も会場に何度か足を運ぶ機会があり、選手・役員の皆さんの熱気に触れ、元気・勇気を与えていただきました。また、会場ではリユース・リサイクル

など環境に配慮した取組みが行われていました。華やかさの中に、ともに美しい自然を守ろうという地道な姿がありました。

皆さんは、技大で最先端の技術を得て巣立っていかれます。平坦な道ではなかったと思います。研究に邁進する中で、最高の師、最高の友を得ることができたのではないのでしょうか。国体会場が近隣の小中学生や町内会の協力で美しく整備されていたように、研究も一人の力では成功・発表はできなかったはずで、母校で学んだ全てのことを糧として、今後の人生を自分らしく、前向きに進んで行ってください。皆さんの将来が幸多いものになるよう、心から祈っています。



同窓会会長  
新潟県立塩沢商工高校教諭  
磯部 広信  
HIRONOBU ISOBE

退職にあたって

定年を前に

機械系 教授  
矢鍋 重夫  
SHIGEO YANABE



研究室OBマルフィム君の故郷東ティモールロスバロス訪問時の歓迎風景

東工大へ入学して、自分の研究が場所と時間を越えて他の人に役立つ、そんなことに憧れて博士課程に進みました。Dr取得後7年間助手をやリ、昭和55年4月、本学に参りました。大学はすでに形が出来上がっていて、高専のトップクラスだった学生は学力もあり、製図や機械加工の力もあったと思います。空いていた2号棟1階南側に実験室を構え、回転機械の振動の研究を始めました。浮動型遊星歯車装置の横・ねじり連成振動、ガイドローラの乾性摩擦による前向き振れまわりと鳴きなど、いくつかの新しい振動現象を見出すことができました。また、最後の10年は、複写機やプリンター関連で、ベルトのスキュー、定着ローラによる紙しわなどのコンピュータシミュレーションを行い、企業の技術者に役立つ

結果を出せたと思っています。思い出に残るのは、文部省在外研究員として9ヶ月間家族と西ドイツに滞在したこととベルリンの壁崩壊、タマサート大学工学部支援JICAプロジェクトでのバンコク滞在、本学の自己点検評価・大学評価等への関わり、本学FDセンターの立上げなどです。

30年間、なんとか大学教員として仕事できたのは、諸先生方・事務職員の方々、研究室の学生諸君・他大学の先生方や企業の方々、テニスの仲間たちのお蔭だと深く感謝しております。常に一段高いところを目指して教育・研究に励み、社会に貢献することが大学人の本分だと思っています。皆様の今後の活躍を期待しています。

退職に当たって「おもひでぼろぼろ長岡讃歌」

機械系 教授  
白樫 正高  
MASATAKA SHIRAKASHI



私は雪と山と酒が大好きで、昭和53年4月に第1期生の入学と同時に勇んで赴任しましたが、実は本学設立の趣旨をよく知りませんでした。しかし、私にとっては全くの偶然ですが、それ以前の、東レでの三島工場と絶対にいやだと言ったのに配属された滋賀設計室勤務、都立航空高専での非常勤講師の経験が、本学での仕事にたいへん役立ったことはまことに幸運でした。人との出会いについても巡り合わせに恵まれ、若い頃には年長の方々の温かいご指導とご配慮の下でのびのびと働き、研究室の立ち上げは装置の設計製作が上手で地道な実行力を持つ元気な学生諸君が進めてくれました。そして自分が年

寄りの側に回った時には有能な若い人達に支えられて、これまで何とか職務を果たして一と言うより大学での生活を存分に楽しんで一来られたと思っています。従来の大学にはできないことをするという姿勢も私の性分に合っていたらしく、講座間の壁の排除、産学連携、国際化の方針の実践として行った、技術開発センタープロジェクト、実務訓練、広範な海外交流等の活動はたいへん面白く有意義な経験でした。

本学設立の理念は今や多くの大学が標榜するところとなりましたが、本学が今後も独自の目標を掲げて他大学にできないことを果敢に試みる大学として発展することを祈ります。

## 退職にあたって

### 大学と地域の皆さんに感謝

環境・建設系 教授  
松本 昌二

SHOJI MATSUMOTO



昭和53年4月に建設現場であった大学に第1期生を迎えてから、定年まで32年が過ぎました。個人的には結婚直後に東京から長岡に来て、家族ともども、大学と地域の皆さんに本当にお世話になったという思いです。初めの頃は建設系の教官同士で温泉、スキーへ出かけるなど、のどかな雰囲気にもまれていました(今でもゴルフの悠球会は参加しています)。研究室は石川允先生が教授でいらしたとき、私と中出先生とき、そして私と佐野先生ときと変化はしましたが、いつも若い先生と多くの院生、留学生が出入りしていました。都市交通計画を専門とするため、できるだけ世界の都市を見たいと思い、アメ

リカ、ヨーロッパ、アジアへ出かけました。さらに、JICA-HEDSの要請でインドネシアの地方大学へ10回行ったこと、ベトナムのダナン大学とのツィニングプログラムを立ち上げたことは忘れられない思い出です。系長を4年間務め、その間に、中越地震、そして創立30周年記念事業を経験しました。この30年間余り、歴史的にはポスト戦後社会といわれますが、政権交代になり、長岡技術科学大学においても教育・研究に新たな改革(チェンジ)が求められると思います。皆様のご健闘をお祈りし期待しています。

### 技大の成長とともに

教育開発系 教授  
宮田 保教

YASUNORI MIYATA



初代学長の川上先生のもと、昭和52年6月頃から、本学の開学準備に携わり始めました。場所は当時新橋駅前にあった蔵前工業会館でした。私の主な担当は学務関係(学年歴、カリキュラム等)でした。「理工学は積み上げの学問で、短期集中が適している」との川上先生の提唱のもと、6学期制、実務訓練などの特徴を取り入れ、学年歴等を構成しました。現在の3学期制は、その名残です。

また、準備と並行して、第1期生の入試が行われました。編入試験は暑い8月に長岡高専をお借りして、1年生の入試は、バスの屋根の高さほどの雪の壁に囲まれた長岡短大(現長岡大学)でした。長岡とは、とんでもないところの印象で、宿はいずれも成願寺温泉でした。

昭和53年4月時点では、講義棟、計画経営棟(現耐震工事部分)、食堂のみ。

初年度の大きな準備は、実務訓練実施体制の構築でした。実施することは決まっていたが具体的内容はゼロでした。学生引受けに関しては、教員出身企業への依頼では約200名の学生には全く足りず、学長が経団連の土光会長に直接依頼して、実務訓練先がころうじて確保されました。

その後の技大の発展は、ご存じの通り。理学部出身の私が無事に退職を迎えられたのは、優秀な同僚、学生に恵まれたためと、感謝しています。紙面を借りてお礼いたします。ありがとうございました。

### 退職に当たって



学務部学生支援課長  
倉重 洋一

YOICHI KURASHIGE

私は昭和54年4月に本学へ旧厚生省から縁あって赴任いたしました。赴任時はまだ開学期間もないこともあり建物も工事中のものがあったりしましたが、教職員は使命感に燃え本学の教育理念でありますVOSの精神をモットーに個性輝く大学を目指し、情熱と強い信念をもって日夜懸命に業務を遂行しておりました。私もそのような状況下の中でしたので無我夢中に教職員の皆様の温かいご支援ご協力の下に業務を遂行させていただくことができました。このように創設後間もないという時期における業務に携わることができたことは貴重な経験にもなり今後に繋がる私の財産ともなりました。それ以降本学においてはいろいろな業務を経験させていただくことができ、平成12年9月からは約8年近くにわたり高専、他の国立大学を経験させていただきました。法人化前でのその対処方法、準備等、また、法人化後の対処方法等について経営面等からもいろいろと勉強をさせていただくことができました。今思いますと

学外の教育・研究機関での経験等は、気がつかないうちに自分を高め、成長させているものと強く感じました。本当に良い経験をさせていただいたと思っております。

さて、第一期の中期目標・中期計画の期間が本年3月に終了し、これから第二期中期目標・中期計画の期間が始まります。本学は、教育理念でありますVOSの精神に基づき、今日まで考え出す大学をモットーに展開してまいりましたが、今後さぞかし困難なこともあるかと思えます。引き続きこのVOSの精神を大切に心に持ち続け、日本は無論のこと世界に羽ばたく個性輝く大学としてさらに磨きをかけていただければと思います。

最後にここまで私を育ててくださった教職員の皆様に深く感謝申し上げますとともに本学の益々の発展と教職員の皆様のご多幸とご活躍を心から祈念し退職の挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

### 思い出すこと



学生支援課副課長  
平澤 丈治

JYOUCHI HIRASAWA

長岡工業高等専門学校に昭和43年から勤め始め会計課用度係、施設係、学生課学生係、教務係に11年間、昭和56年から新潟大学教育学部附属学校長岡附属学校係に4年間、長岡技術科学大学で27年間事務を行ってまいりました。皆様には長い間大変お世話になり定年を迎えることになりました。長岡工業高等専門学校の会計課では、課外活動施設、福利施設、土木工学科の建物新営設備の購入、第2体育館の建物新営、グラウンドの法面の崩落復旧、学生課では、1年生の合宿研修及び体育大会の引率。新潟大学教育学部附属学校長岡附属学校係では、長岡附属学校園(現住吉町、帝京高校)、から教育学部(現学校町、教育学部附属学校長岡附属)跡地への移転、

設備の購入、和光寮の教育実習の受け入れ事務等微力ではありますがお手伝いをさせていただきました。今となっては懐かしく思い出されます。また、長岡技術科学大学では、様々な業務事務及び中越地震随筆集、30周年記念誌の刊行と関係者の方々には御協力をいただきましたことを感謝しています。

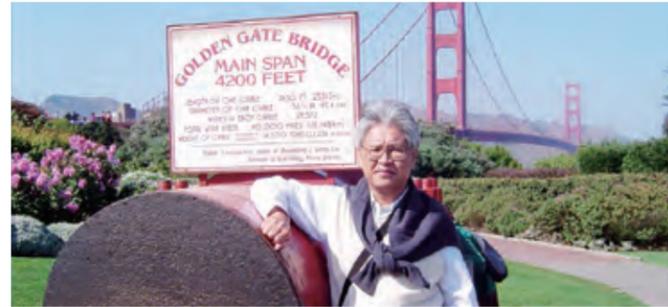
経済・社会では、好くあれ悪くあれインフレから現在のデフレまで否応なく社会の流れを経験してまいりました。景気の早い回復を願うところでもあります。また、大学も法人化及び少子化等これまでに経験したことのない様々なことが押し寄せてまいりました。これからも色々な経験と知恵で対処していくこととなります。これからの大学の新たな躍進を願い挨拶とさせていただきます。

## 退職にあたって

### 31年間を振り返って

学務課・技術班 技術長  
穂刈 治英

HARUhide HOKARI



1979年4月から本学に31年間お世話になり、3月末日に定年を迎えることになりました。

前半の15年間は故丸林元名誉教授の下、通信伝送工学分野に関して、後半の16年間は島田正治教授の下、音響工学分野に関して教育研究支援業務に当たらせて頂きました。両先生で取り扱う周波数帯が異なっていたため、波長の計算(通信分野では光速:約30万km毎秒を、音響分野では音速:15℃で約340m毎秒を、周波数で除算)に一瞬戸惑うことがありました。また、音響関連のAudio Engineering Societyの国際会議には大学院生とともに数回出席さ

せて頂き、外国での貴重な体験をいたしました。

2004年からは音響振動工学センターの管理・運営にも携わるようになりました。本学の誇る教育研究施設のひとつであり、見学者が多く、小中高生は普段体験できない無響室、残響室で歓声をあげていました。

2008年には技術長に任命され、組織運営の一端を担えたことも貴重な体験でした。

無事に技術職員としての職務を全うできたことは、学内の皆様方を始め多くの方々のご指導、ご支援、ご協力の賜物と感謝申し上げます。

最後に、本学のますますの発展を祈念しております。

## 行事報告

### 同窓生との懇談会を開催しました

3月7日(日)にマルチメディアシステムセンターにて、同窓生との懇談会が開催されました。本学の1期生がすでに50歳を超えており、会社の中でも重要なポストに就任しているばかりでなく、そこに至るまでの間にさまざまな製品を開発するなどの経験を持っていることから、特に活躍している方に学生向けの講演をお願いしました。

講演のテーマは「私の学生時代と現在」で8名の方々が生徒時代の思い出と会社における成功談や苦労話を披露しました。一人15分の短い時間内に、薄型テレビの製品開発、ダカールラリー用の車両開発、羽田空港D滑走路の建設秘話、海外子会社の社長としての経験談、洞穴の中のミュージアム建設にかけた意気込み、日本酒作りこめる情熱、200人の技術者のトップとしてのやりがい、ベ

ンチャー経営の苦労話、留学生として来日し人のつながりで日本の大学教員となった経験などのほかに、開学当初の何もなかった時代に教員と一緒に大学を整備した思い出や川上正光初代学長の主導した斬新な技術者教育について聞くことができました。

続いて、大学や研究所に勤めている同窓生6名により「同期の桜」のテーマでパネルディスカッションを行う予定でしたが、講演が盛りだくさんで実現せず、残念ながら簡単な紹介だけとなりました。

参加した学生、教職員からはたいへんよい話が聞けたと好評でした。講演した同窓生の中には20年ぶりに母校に戻ったという方もいて、お互いのよい交流となりました。最後に、設営や運営に協力いただいたスタッフと、会を盛り上げた参加者に御礼申し上げます。

## 長岡の歴史探訪

【幕末維新編】

生物系 准教授  
高原 美規  
YOSHINORI TAKAHARA



米百俵の群像(ハイブ長岡前)  
中央右、座って説得しているのが小林虎三郎



八丁沖古戦場  
北越戦争当時は底なし沼でしたが、今では水田になっています。



現在の地図上の長岡城 長岡駅が本丸址外堀となる柿川、福島江の河道は当時のまま。  
北越戦争(慶応4年、1868年)  
5月19日新政府軍は西方(青矢印)から信濃川の渡河により奇襲、落城。  
7月24日同盟軍は東方(赤矢印)から八丁沖の渡河により奇襲、奪還。  
7月29日新政府軍総攻撃、再度落城。同日新潟も陥落し北越戦争終結。

### 「峠」の時代を生きた二人

幕末から維新にかけての激動の時代、長岡を導いたのが河井継之助と小林虎三郎です。二人は遠戚にあたり、青年期にはともに佐久間象山に学びました。

大政奉還から戊辰戦争へと時代が移る中、長岡藩の上席家老となり維新三傑にも匹敵すると評された河井は、幕軍の鳥羽伏見での敗戦を知るや江戸屋敷を処分し、当時日本にあったガトリング砲3門の内2門を調達した上で、一番武装中立で藩論をまとめます。

公武合体を進めた幕閣で藩主が3代に渡り老中を勤めた長岡藩は、新政府軍にも旧幕側にも与せず、両者の調停役となろうとし

ましたが、会津征伐に進攻してきた新政府軍との小千谷談判は決裂し、奥羽越列藩同盟に加わり北越戦争に突入します。長岡城が三度落城するなど苛烈を極めた戦役の中で、前線で指揮を執った河井が戦死すると同盟軍は士気を失い、北越戦争は終わります。

戦後は戊辰戦争で不戦を唱えた小林虎三郎が大参事として復興を指導します。降伏後、長岡藩は存続こそ許されますが、大きく石高を減らされ困窮を極めます。米百俵の逸話はこの当時のものです。しかし、明治3年の廃藩置県の直前に廃藩、柏崎に編入となり、越後の要、長岡は県となることはなかったのです。

### トピックス

## TOPICS

### 新着ニュース

- 2010.03.08 「岩谷科学技術研究助成金」に機械系 宮下幸雄准教授が選定されました。
- 2010.02.23 「高専機構／長岡・豊橋技科大 先進技術説明会」を開催しました。
- 2010.02.12 メキシコ・グアナフアト州から日墨米3国協働プログラム関係者が来学されました。
- 2010.02.10 参議院の国際・地球温暖化問題に関する調査会に経営情報系 李志東教授が出席しました。



日墨米3国協働プログラム関係者で記念撮影。  
(左から、メキシコ・グアナフアト大学 杉田敏教授、本学 新原学長、経済産業省 Ricardo Parra 部長、グアナフアト州科学技術庁 Ramiro Rico 部長、本学 小林教授、本学 渡邊副学長)